

本時のねらい

登場人物や出来事などの場面を分けることで、物語の構造に気付く。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

登場人物や出来事をノートにまとめることが苦手な児童にとって、物語の構造に気付くのは難しい。ミライシード（オクリンク）を活用すると、カードに気軽に絵や文字が入られるので、出来事の整理がしやすくなる。そこで、これを活用して手軽に場面を分け、まとめやすくすることで物語の構造に気付きやすくすることをねらいとしている。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットPC
- ・ミライシード（オクリンク）
- ・拡大用テレビ
- ・国語デジタル教科書

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本文を音読し、場面を確認する。 ○本時のめあてを確認する。 「それぞれの場面に何が合ったか整理しよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を拡大用テレビに映し、今読んでいる場所をわかりやすく示す。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○オクリンクでばらばらになったカードを正しくつなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のカード ・さし絵のカード ・場所のカード ・名前の呼ばれ方のカード ○できたカードを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・このカードの順番でいいだろうか ・このカードは何場面だろうか ○オクリンクで作ったカードを場面に分けなおし、気付いたことを交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのカードを場面のグループに分けなおす 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の中で児童に気付かせたい言葉やポイントをあらかじめ教員がカードに作成しておき、ばらばらにした状態で児童のタブレット端末に送信することで、教科書のその部分に立ち戻るきっかけを作る。 ・カードをつなげられたら、スライドショーにして確認することで、場面がつながっていることに気付かせる。 ・完成したものを教員機に送信し、全体で発表する。確認しながら場面を追っていき、場面のできごとを整理する。 ・教科書と対応させながらそれぞれの場面であった出来事などをオクリンクでつなげてまとめていくことで、各カードのグループが何場面であるか、改めて確認するとともに場面ごとの比較もしやすくする。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のふりかえりを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・第一場面と第五場面に同じカードがある。 ・どの場面にも名前のカードや登場人物のカードが1枚ある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクで作ったものを見ながらノートにまとめていき、場面で発見したことを文章にまとめている。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：教科書と見比べながらカードの順番を操作している場面



写真2：カードを入れ替えたものをスライドショーで確認している場面



写真3：作ったカードを教員機に送り、それを使って発表している場面

児童生徒の反応や変容

- ・国語の教科書を見ながら場面の確認を行う児童が多かった。タブレット端末を活用することで改めて教科書の語彙や表現に立ち戻ることができた。
- ・カードで場面分けすることで冒頭と結末に同じカードがあることに気づき、物語の段落構成の仕組みを発見する児童が多かった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・本文から見つけ出す活動をする、発見だけで時間がかかってしまうが、タブレット端末を使うと簡単に登場人物や場面を整理することができた。
- ・オクリンクのカードの機能を用いて整理することで、段落の意識を改めて持つことができた。